

あいち農産物生産流通レポート

2021年11月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ かがり弁ギクのブランド戦略の方向性を明確化 (農業総合試験場)	1
・ 「東京インターナショナル・ギフト・ショー」が開催されました (東京事務所)	3
◎ 地域トピックス	
・ 蔵元から発信！オンライン手作りみそ教室～みその学校～ (豊田加茂農林水産事務所)	4
・ 「道の駅したら」で奥三河を満喫 (新城設楽農林水産事務所)	5
◎ 東日本情報	
・ コロナ禍における様々な業種の販売取組 (東京事務所)	6
◎ 西日本情報	
・ 県開発ニホンナシ新品種「愛知梨3号」のPR活動について (園芸農産課)	8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の11月の見通し(県内市場)	22

※今月「フラワーページ」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

かがり弁ギクのブランド戦略の方向性を明確化

農業総合試験場

かがり弁ギクは、愛知県と国立研究開発法人量子科学研究機構により共同開発された新品種で、花卉の先端に複数の突起を有する「かがり弁」と呼ばれる珍しい花型が特徴です。

その特徴的で優雅な花型から、従来の一般的な輪ギクの用途とは異なり、ブライダルやフラワーアレンジメントなど様々な場面への利用が期待されています。また、新品種の全国的なコンテストであるジャパンフラワーセレクション 2018 - 2019(以下、JFS)で、白色の切り花がベストフラワー賞を受賞するなど、花き業界で高く評価されています。

そこで、かがり弁ギクの市場性や品種のPR手法について調査・分析し、行政や関係団体が多様なニーズに応えるブランド化を推進するために有用と考えられる方向性を明確化しました。

なお、本研究の一部は、次世代国産花き産業確立推進事業（農林水産省）により実施しました。

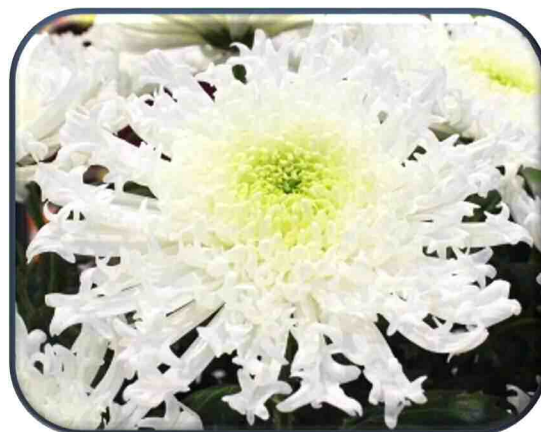
1 評価の高い白を中心に高価販売

かがり弁ギク（白・赤紫・黄）の切り花を消費者と流通関係者（卸売市場、小売店）に観賞してもらい、評価をアンケート調査しました。

消費者の希望購入価格は 300～400 円/本（卸売価格換算 150～200 円/本）で、流通関係者の希望卸売価格は 100～200 円/本でした。これらの価格は、調査時（2019 年度）の輪ギクの卸売価格の 65 円を大きく上回っており、特に好意的な感想が寄せられた白色を筆頭に、独創的な商品価値が高く評価された結果を反映していました。

2 新たな利用法の開拓

フローリスト（フラワー装飾を業とする者）にブーケ（切り花）や寄せ植え（鉢花）を製作してもらい、評価を聴取しました。ブーケは多様な形状でインパクトのあるものができ、寄せ植えは他品目との組合せ等の適性が高いと評価されました。その他、ブライダル向けの花束、アレンジメントやスタンド花などへの利用が期待されます。



かがり弁ギク（白）



植樹祭（2019. 6. 2）でのディスプレイ



かがり弁ギクの白と黄を用いたクリスマス用寄せ植え

新たな需要として、贈答用、祝い事用、年末年始の個人用及び業務用が見込まれます。

3 顧客層の明確化

アンケート調査で得た花の購入動向と消費者の属性データの関係を解析した結果、販売の標的となる顧客層は、花の購入頻度が高い、中高年齢の女性で自宅用に花を購入する層でした。この層を中心に認知度向上を図ることが効果的と考えられます。

4 認知度向上に向けた PR 手法の活用

流通関係者と消費者にかがり弁ギクの認知度向上を図る手法を検討しました。

流通関係者に対しては、産地から市場を経由し小売店への配送に使われる出荷箱をデザインし、提案しました。試作した縦箱には、ロゴ、品種紹介文、JFS 受賞マークと二次元コードである QR(Quick Responce) コードを 2 色刷で配しました。アンケートの評価結果から、高級感があり、品種の特長を直感的に伝えるデザインを取り入れることは、かがり弁ギクの認知向上に効果的であることが明らかとなりました。

また、消費者に、切り花に取り付ける商品タグを提示したところ、概ね好評価を得ました。商品タグは、出荷箱に同梱あるいは事前に小売店に配布して、切り花の花首に取り付けるアイテムです。試作した商品タグには、JFS 受賞マークや品種解説等の情報を高級感とインパクトが増すようデザインしました。情報の詳細は付記された QR コードにより農業総合試験場のウェブページで知ることができます。この仕組みは、かがり弁ギクの情報が必要に応じて入手できるため、購入者の知的好奇心を刺激し、贈答相手への品種説明にも活用できます。このような PR 手法、特に、JFS 受賞等の話題性のある情報提供は小売店に対しても有効です。一方で、商品タグの取付け手間が発生するので、花への着脱が容易な素材と構造に改善する余地があります。



切り花出荷用の試作縦箱
左：外観、右：内部



試作した商品タグ
コート紙製（横 46mm×縦 114mm）



出荷箱、商品タグの QR コードから閲覧できる
農業総合試験場の品種紹介ページ

「東京インターナショナル・ギフト・ショー」が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2021年10月13日（水）から15日（金）にかけて、「第92回東京インターナショナル・ギフト・ショー秋 2021」（主催：株式会社ビジネスガイド社）が東京ビッグサイトで開催されました。このうち園芸商材などを扱う「フラワー・グリーン&ガーデングッズフェア」について、概要を紹介します。

1 ギフトショーと出展物

インターナショナル・ギフト・ショーは日本最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市で、48のフェアと企画ゾーンで構成されています。

そのうち「フラワー・グリーン&ガーデングッズフェア」では、鉢や花器などが中心に展示されました。その他にも使い終わったペットボトルや牛乳パックを中に入れることで一輪挿しにできる紙製のフラワーベースカバーなど SDGs に関連した商品や、切り花を挿すだけで壁などに手軽に飾れるジェル入りのパック、自宅で簡単に缶の中で野菜や花を栽培できるキットなど、巣ごもり需要に向けた商品もありました。



紙製のフラワーベースカバー



ジェル入りの一輪挿しパック

2 講演会について

このイベントでの講演会の一つに「植物のホームユース需要の増加と定着化を流通と小売りの現場から考える」と題して（株）フラワーオークションジャパン及び豊明花き（株）の代表取締役社長の福永哲也氏と（株）オザキフラワーパーク代表取締役社長の尾崎明弘氏のディスカッション形式の講演がありました。

両氏からは、コロナ禍以降、花きでは業務需要が落ち込んだ代わりに、巣ごもり需要で一般消費が伸び園芸ブームになった。花瓶が多く売れるようになり、若者も多く店に来るようになった。若者はインテリアの一部として観葉植物や鉢を購入していくことが多いといったことなどが紹介されました。

また、今後はこの園芸ブームをさらに広げるために園芸初心者をしっかりとフォローアップし、リピーターとして定着させていくことに力を入れていきたいとのことでした。



缶を利用した栽培キット

緊急事態宣言が解除されたこともあり、会場には非常に多くの参加者が訪れて情報収集に取り組んでいたことが印象的でした。

蔵元から発信！オンライン手作りみそ教室～みその学校～

豊田加茂農林水産事務所

豊田市で昭和3年の創業当初から、伝統的な木桶醸造にこだわった味噌づくりを行っている合資会社野田味噌商店。味噌を愛し、郷土を愛し、若い世代に日本の食文化を伝えていきたいという思いから、味噌蔵見学や体験学習などを通じて、伝統食品である「味噌」や郷土料理の普及活動を行っています。

新型コロナウイルス感染拡大の折、なんとかこの活動を継続させるため、蔵元の若い四代目が取り組んだオンラインによる手作りみそ教室について御紹介します。

1 手作りみそ教室(みその学校)

そもそも昔は各家庭で普通に行われていた味噌づくり。この手作りの良さを体験してもらうため、県産材料を使って仕込みから熟成までを体験できる“みその学校”が平成29年から豊田市で始まりました。



手作りみそ教室案内サイト(手前みそのススメ)
<https://temaemiso-susume.com/>

プロの味噌屋さんから直接教わりながら仕込める教室は、たちまち人気となり、募集案内が出るとすぐ満席になってしまうほどで、東京や名古屋でも開催されています。

2 コロナをきっかけに始まったオンライン教室

対面により開催してきた教室が、新型コロナウイルスの影響により軒並み中止せざるを得ない状況になった昨年、以前からオンライン教室の構想を練っていた四代目が“みその学校オンライン”を開始しました。この教室では、前日に材料一式が自宅に届けられ、当日はZoomを使ってリアルタイムで一緒に仕込みを行います。



オンライン教室 Web ページ



感染リスク軽減のために開催したオンライン教室でしたが、参加者からは、

- ▶ 小さな子どもや高齢者がいる家庭でもみんな参加できる
- ▶ 交通費や移動時間が節約できる
- ▶ 自分で仕込むことができたという自信がつくなどの声が寄せられ、大好評となりました。

現在は、対面教室を再開するとともにオンライン教室も継続中です。これからも、若き後継者が、時代に合わせた方法で日々アップデートしながら、先代からの思いを繋いでいきます。

「道の駅したら」で奥三河を満喫

新城設楽農林水産事務所

2021年5月13日に設楽町にオープンした道の駅「道の駅したら」では、お酒造り体験や設楽町特産品の購入、奥三河の歴史・文化等の見学ができ、人気の観光スポットとなっています。

1 お酒造りを体験「ほうらいせん酒らぼ」

奥三河に位置する山あいの町設楽町には山々から湧き出る美味しい水、寒暖差のある気象条件などにより、旨味が濃縮された美味しいお米が育ちます。古くから酒造りの条件である美味しいお米と水がそろったこの地には多くの銘酒が育っています。

「道の駅したら」には、地元の老舗酒造「関谷醸造」の酒造りを体験できる施設「ほうらいせん酒らぼ」が併設されています。

参加者は仕込み作業のお手伝いをしながら、お米を洗う、蒸す、仕込む、搾るの作業を体験することで、日本酒造りの面白さや難しさを体感できます。仕込み体験したお酒は約3週間後に完成し、お土産として1本受け取ることができます。

また、甘酒教室やワークショップも実施されています。体験には、すべて予約が必要です。費用等の詳細は、関谷醸造HPの予約サイトにてご確認ください。

URL：<https://www.houraisen.co.jp/>



酒造り体験

2 地元食材を楽しむ「清嶺市場」「清嶺食堂」

この道の駅では、設楽町産の野菜や山菜、お米など旬の農産物、漬物、乾物等の加工食品や山の恵みのジビエ等を販売する「清嶺市場」と、設楽町産のトマトをたっぷり使ったカレーやジビエ料理を楽しめる「清嶺食堂」が併設されています。



産地直売コーナー

3 地域の歴史と文化に触れる「奥三河郷土館」

「奥三河郷土館」では“奥三河のくらしとところをつたえる”をテーマに設楽の自然と生きものたち、人々のくらしと社会のはじまりなどを木の香りに囲まれながら見学ができます。

また、屋外には廃線となった豊橋鉄道田口線の実物車両が展示されています。



田口線鉄道車両

コロナ禍における様々な業種の販売取組

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

1年以上に渡る新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの業種・店舗が販売に苦慮しています。様々な業種における販売戦略や販売促進の取組状況に関する講演会や研究会の内容について紹介します。

1 第64回インターナショナルプレミアム・インセンティブショー秋2021（主催：株式会社ビジネスガイド社）

2021年9月8日（水）～10日（金）に「消費者の行動・価値観の変化を捉えた、新たな販促戦略の創造」をテーマとして、販促商品の展示や、創意工夫を凝らした企画により集客に成功した6企業・店舗の表彰、今後の販売促進に向けた講演が行われました。

(1) 販促ツール・サービス展示

会場内に「新生活様式グッズコーナー」や「サステナブル・ノベルティ」が設置されていました。農産物に関する商品では、茶柱のたつお茶、有機ハーブを用いた飲料、芽の出る鉛筆、有機種子が紹介されていました。



紹介されていた商品（有機種子）

(2) 第7回リテールプロモーションアワード

表彰されたプロモーションの共通事項は「変えるのではなく強化」であるとし、①コロナ禍に惑わされず、②個々のニーズに寄り添い、③実店舗の魅力を演出した、との審査講評がありました。6事例のうち3事例の取組を紹介します。

ア 株式会社阪急阪神百貨店の取組

リモートショッピングサービス「Remo Order（リモオーダー）」として、店舗の商品を来店せずにオンラインで購入できるサービスを開始しました。それまではオンラインで決済できる手段がありませんでしたが、システムを整備してホームページ上で告知した結果、利用者は緩やかに増加しています。利用者の8割が女性で、店舗より若い購買層となっています。

イ 株式会社松屋・銀座本店の取組

「いいかも？新・生活様式」と銘打ち、増えた時間を使って豊かに暮らすアイデアを次のように提案しました。①「手洗いを、香りを楽しむ時間にする。」などの商品を使ったアイデアについて、「松屋社員が実験中！」として試した結果をGIFアニメで発信。②商品POPに2次元バーコードをつけ、社員の商品体験結果を掲載。③「動画特典付き商品」として、バーテンダーによるバーグラスの使い方などのプロの視点

での商品の使い方を動画で公開。

ウ 株式会社ワークマンの取組

SNS とリアルを繋ぐ新しいコンセプトストア「#ワークマン女子」は、女性客やファミリー層の新規顧客の獲得、インスタ世代の認知度向上を狙っており、2021年8月現在で首都圏に6店舗あります。アンバサダーが開発に協力した製品について発信し、それを見て来店した客が、店舗内に設置された SNS 発信できるスポットから発信することで新規顧客の獲得につなげる仕組みで、SNS 投稿率は高くなっています。

(3) 講演「新たなプロモーション時代の到来～SDGs コミュニケーションの取り組み方～」 (ライオン株式会社 サステナビリティ推進部長 小和田みどり氏)

日本人には「言わない方が美德」との感覚があるため、商品の宣伝には SNS をうまく使用し、自分が大きく宣伝するのではなく、宣伝を見た人が広めてくれる、宣伝してくれるという形が望ましいとのこと。

また、サステナビリティの推進には、CSV (Creating Shared Value : 企業が、社会ニーズや問題に取り組むことによる社会的価値の創造) や企業の価値にどうつなげるかを重視している。さらに、商品のサステナビリティだけを打ち出しても購買行動につながりにくいので、お得感と組み合わせた洗剤等の詰め替え商品を例にして、買ってもらうには、他にないこと、タイムリーさ、心に刺さることを強調していました。加えて、最近ではジェンダー問題を必ず考慮する必要があると注意喚起がありました。

2 緊急特別研究会「新型コロナウイルス禍における農産物流通問題を考える」(主催：一般社団法人農業開発研修センター)

2021年9月17日(金)にオンラインで農産物流通に関する研究会が開催されました。

(1) コロナ禍におけるわが社の販売戦略-卸売市場機能強化のさらなる展開を目指して- (東京青果株式会社 専務取締役 泉英和氏)

卸売市場法の改正により商物一致の原則が廃止されたことから、品質向上や物流の効率化を図るため、産地からの直送の取組を進める。また、リモートワークが増えるなど働き方改革が進んだことで、自分の時間が持てるようになった層と、逆に時間が減少した層の2極分化しており、後者が求める「時短・簡便」を考えた提案をする必要がある。小売り・業務用・EC (Electronic Commerce : 電子商取引) をさらに区分して個別への細やかな対応や、輸送手段の変更やパレットの利用方法の改善といった物流の効率化に向けた対応などを実施していく、と今後の展開を話されました。

(2) コロナ禍における産地の販売戦略を考える

(農業ジャーナリスト・東京農業大学客員教授 小暮宣文氏)

コロナ禍によって EC が増加したほか、生鮮素材より冷凍・加工やミールキット食材への傾斜が起きた一方、赤字となる世帯が多く、パックの量や個数など、これまでと同じ売り方でいいのかと問題提起がありました。また、農協の販売事業の収益改善に向けた販売方向の明確化、卸売市場の広域化・ネットワーク化の必要性を訴えかけました。

県開発ニホンナシ新品種「愛知梨3号」のPR活動について

園芸農産課

ニホンナシ「愛知梨3号」は、約13年の年月をかけて本県と国が共同開発し、2019年10月に品種登録出願された品種です。糖度が非常に高く甘味が際立ち、果汁たっぷりでみずみずしいのが特徴で、「幸水」以降に出荷される良食味の梨として定着することが期待されています。

愛知県のブランド梨となることを目指し、県、生産者、農業団体、農産物直売施設が連携して、PR活動に取り組んでいます。



愛知梨3号

1 知事への表敬訪問

8月18日、愛知県果樹振興会なし部会及びJA関係者が愛知県公館を訪れ、愛知県の梨の魅力を大村愛知県知事にPRしました。これまで積み上げてきた技術で質の良い梨を栽培していることや、新品種である愛知梨3号の導入し積極的に新たな取組を進めていることを紹介しました。

大村知事は愛知梨3号を試食し、「甘くておいしい。県としても新品種のブランド化に向けてしっかりと取り組みたい。」と話しました。

当日の様子は、新聞にも取り上げられました。



愛知梨3号を試食する大村知事

2 消費者に向けてPRイベントを開催

9月24日、大府市の農産物直売施設「JAあぐりタウンげんきの郷」にて、消費者に向けてPRイベントを開催しました。イベント当日には、192名の方に愛知梨3号を試食していただき、食味に関するアンケート調査を実施しました。アンケートでは、9割以上の方が「おいしい」と回答し、特に、果汁の多さと際立った甘味に驚く声が多く、「発売が待ち遠しい」「早く購入したい」との反響がありました。



イベント当日の様子

3 今後の取組

愛知県では昨年からは各産地で苗木が導入されており、来年8月に初出荷、2025年に本格出荷を予定しています。県外の産地との差別化を図り、効果的にブランド化を進めるため、今年度中に愛知梨3号のブランド名を決定し、さらにシンボルマークを策定します。

今後も、愛知梨3号の魅力を実感する機会を創出することで、一層の知名度向上を図ってまいります。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：ぎんなん）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2年実績	69	67 (98%)	1,002	999	岐阜 (1 %)
3年見通し	60	—	700	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
今年は豊作だが小玉が多いため、価格はかなり安値となっている。新型コロナウイルス感染症の影響で営業を止めた飲食店が多く、業務需要が落ち込み、販売に苦労している。早生品種の「久寿」は10月末頃で入荷は終了する見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。			愛知のぎんなんは形が良く、全国一の産地であるが、小玉が多くなっている。消費者に好まれるのは大玉のため、生産者の高齢化が進む中ではあるが、できる限り枝の剪定作業に取り組んでいただき、大玉の数量増をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：カリフラワー）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
2年実績	4,007	253 (6%)	233	191	茨城 (16%) 熊本 (14%) 長野 (12%)
3年見通し	3,900	—	250	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
本年9月は曇天・長雨が続いたため入荷量が少なく高値で推移したものの、10月は生育が回復して入荷量・価格ともに安定している。 定植期の9月に曇天が続いた影響で、11月以降の入荷量は減少する可能性がある。価格は大きく崩れない見込みであるが、入荷量が急増すると販売に苦戦するか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。			需要の増加により、どの階級にも固定客がいるため、引き続き安定した出荷とともに、8玉中心にバランスのとれた出荷をお願いしたい。 量販店への売り込みは、おおよそ1週間前に販売価格を決定するので、翌週の予約予定の精度を高め、正確な情報を教えてもらいたい。		

名古屋・東京市場における青果物の11月の見通し

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	38,706	216	234	216	192	北海道 31%
	29年	33,600	284	276	291	274	愛知 16%
	30年	37,656	185	183	171	198	茨城 15%
	元年	37,787	234	246	227	223	長野 10%
	2年	36,853	195	206	192	185	青森 3%
	5ヵ年平均	36,920	223	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	33,600	227	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、愛知、茨城を中心に入荷する。切り上がり早い見通し。葉菜類は概ね生育順調。果菜類は産地の切り替わる品目が多く、前年の入荷量を下回る見込み。入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
だいこん	28年	1,830	145	157	166	116	千葉 41%
	29年	2,024	118	103	126	137	愛知 32%
	30年	2,273	68	84	64	61	青森 15%
	元年	2,025	101	107	109	96	鹿児島 6%
	2年	1,945	71	91	71	58	神奈川 2%
	5ヵ年平均	2,019	99	106	106	92	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,000	97	100	100	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知、千葉を中心に入荷する。愛知は高齢化等により入荷量は年々減少傾向である。青森、新潟は11月上旬で入荷終了。愛知、千葉は中旬から下旬に向かって入荷ピークとなる。入荷量は前年よりわずかに増加し、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							
にんじん	28年	1,702	195	241	232	147	北海道 64%
	29年	2,080	139	147	143	135	愛知 18%
	30年	1,515	174	235	160	121	岐阜 7%
	元年	2,157	107	102	121	102	
	2年	2,190	128	145	136	115	
	5ヵ年平均	1,929	145	171	150	123	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,600	160	170	170	140	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に、愛知、岐阜から入荷する。北海道は7月の干ばつや生育前進の影響で11月上旬までの入荷となる見込み。岐阜は中旬から、愛知は下旬から入荷開始となる見通し。入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

10月29日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	120,580	290	310	295	266	茨城 23%
	29年	122,707	269	264	265	279	千葉 18%
	30年	126,889	224	248	215	207	北海道 18%
	元年	124,404	239	236	245	238	群馬 4%
	2年	123,828	209	225	213	188	愛知 4%
	5カ年平均	123,682	246	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	122,000	230	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>前年に続いて台風の被害がなく、気温低下により数量は落ち着いてきているものの順調な生育の品目が多く、不足感のない入荷となる見込み。ただし、果菜類は原油高で加温を控えて出回りが少なくなるか。入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>					
だいこん	28年	12,485	124	141	136	95	千葉 59%
	29年	11,497	105	89	105	123	神奈川 21%
	30年	12,873	59	74	53	49	青森 9%
	元年	10,886	97	100	99	91	茨城 7%
	2年	11,788	59	79	54	44	栃木 1%
	5カ年平均	11,906	88	97	89	80	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	11,000	75	80	75	70	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、神奈川からの入荷が中心となる。9月は低温や日照不足等だったもののその後は天候が順調で生育良好。潤沢な入荷が続くと見込まれる。高温が続くと前進して荷が溢れて相場が崩れるか。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
にんじん	28年	6,912	211	233	227	180	千葉 50%
	29年	7,165	137	130	146	134	北海道 32%
	30年	7,182	117	220	185	131	青森 8%
	元年	7,407	118	101	117	137	埼玉 4%
	2年	7,449	136	138	143	127	中国 2%
	5カ年平均	7,223	143	163	163	141	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	7,300	105	100	110	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、北海道からの入荷が中心となる。千葉は一部がまき直しのため生育遅れがみられるものの概ね生育順調。順次量を増やしていく。北海道は終盤でまとまった入荷は上旬まで。総じて不足感はない。入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	28年	3,131	144	200	139	103	茨城 49%
	29年	3,906	105	82	108	128	長野 35%
	30年	4,255	64	83	62	48	愛知 12%
	元年	4,289	78	72	84	79	
	2年	4,680	46	48	48	41	
	5ヵ年平均	4,052	83	87	86	77	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,300	60	60	60	60	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城、長野を中心に入荷する。茨城、愛知は順調な入荷、長野はピーク過ぎ入荷量は減少傾向となる予想。緊急事態宣言解除により消費拡大が期待される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。						
キヤベツ	28年	3,130	178	248	184	121	愛知 48%
	29年	3,711	111	102	111	120	茨城 34%
	30年	3,707	88	116	75	77	長野 6%
	元年	3,418	80	77	89	78	秋田 4%
	2年	4,044	66	76	69	57	石川 2%
	5ヵ年平均	3,602	102	118	102	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	3,700	70	70	70	70	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、茨城を中心に入荷する。愛知、茨城は順調な生育で、安定入荷を見込む。愛知、群馬は平年より残量があり、順調な入荷予定。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。						
ほうれんそう	28年	296	596	721	731	453	岐阜 45%
	29年	162	969	1,086	955	892	愛知 35%
	30年	380	424	533	357	397	茨城 10%
	元年	269	685	747	772	580	静岡 5%
	2年	386	443	591	488	323	徳島 2%
	5ヵ年平均	299	569	679	596	470	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	380	450	550	450	400	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	岐阜を中心に、愛知、茨城などから入荷する。岐阜は終盤、愛知の露地ものは中旬までに出揃ってくる見込み。茨城は作柄変更等により平年に比べは種量が多い。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

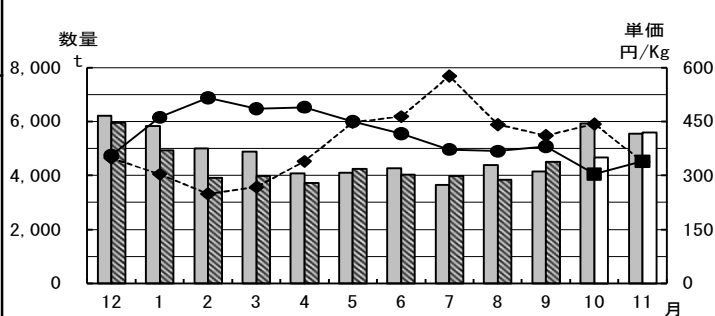
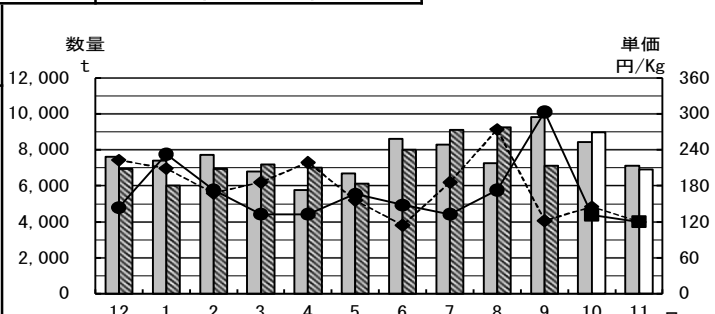
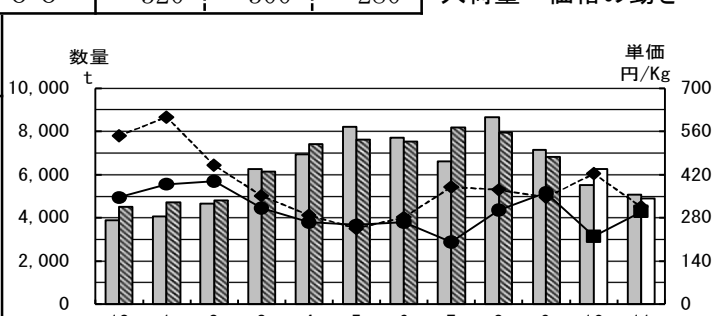
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	1,149	423	426	426	426	長野 29%
	29年	1,194	426	433	401	457	北海道 19%
	30年	1,144	379	424	360	351	富山 9%
	元年	1,170	388	386	377	403	秋田 6%
	2年	1,078	368	408	372	322	岩手 5%
	5ヵ年平均	1,147	397	416	392	387	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,100	370	370	370	370	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野、北海道を中心に各産地から入荷する。北海道は切り上がり早く、減少見込み。愛知の越津ねぎは生育の遅れがみられ、少量ずつ入荷する予想。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並の見込み。</p>					
しそ	28年	1,612	290	439	290	535	茨城 41%
	29年	1,279	439	434	366	535	兵庫 37%
	30年	1,813	161	191	148	141	愛知 10%
	元年	1,626	267	275	276	250	静岡 5%
	2年	2,022	129	134	149	110	熊本 3%
	5ヵ年平均	1,670	241	255	237	232	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,800	160	140	160	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫を中心に入荷する。茨城は10月下旬、兵庫は11月中旬、静岡は11月中～下旬に入荷ピークとなる予想。各産地生育良好、大玉中心の入荷が予想される。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					
きゅうり	28年	876	448	537	467	367	愛知 30%
	29年	797	494	618	396	491	群馬 23%
	30年	1,111	324	356	299	321	宮崎 20%
	元年	1,114	362	475	348	296	高知 11%
	2年	1,281	306	371	309	249	長野 5%
	5ヵ年平均	1,036	375	453	355	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,260	310	350	320	260	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、群馬、宮崎などから入荷する。抑制栽培の産地は11月前半で終了、冬春産地が11月上旬より入荷スタートし、下旬に向かって増量傾向となる予想。冬春産地は作柄良好、順調な入荷見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

10月29日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	5,178	349	368	372	310	秋田 17%
	29年	5,669	407	387	384	452	青森 14%
	30年	5,680	353	400	326	332	茨城 9%
	元年	5,608	371	360	357	394	栃木 9%
	2年	5,554	339	364	353	298	北海道 8%
	5ヵ年平均	5,538	364	376	358	358	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,600	340	350	340	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>秋田、青森など北日本産地及び茨城、栃木の関東産地からの入荷が中心となる。北日本産地は終盤で量を減らす、関東産地は生育順調で量を増やす。品質、肥大とも良好で2L比率が高まる見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>					
しそ	28年	6,827	284	303	295	253	茨城 62%
	29年	5,117	454	412	401	570	兵庫 10%
	30年	7,505	144	184	137	114	静岡 9%
	元年	7,075	253	255	262	242	長崎 4%
	2年	7,119	120	128	137	97	香川 4%
	5ヵ年平均	6,729	237	246	236	235	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,900	120	130	120	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に兵庫などからの入荷となる。主力茨城は生育順調でピークとなる。兵庫も生育遅れから回復し量を増やしていく。総じて不足感のない出回りが見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>					
きゅうり	28年	4,432	449	500	460	391	埼玉 25%
	29年	4,507	476	546	394	491	群馬 22%
	30年	4,870	332	350	313	331	宮崎 21%
	元年	4,884	388	456	386	330	千葉 7%
	2年	5,076	316	367	319	265	高知 7%
	5ヵ年平均	4,754	389	441	372	358	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,900	300	320	300	280	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>埼玉、群馬、宮崎などからの入荷となる。各産地とも生育は良好。群馬は草勢低下に加えて終盤にさしかかり量を減らす。代わって宮崎や高知が増やす。懸念材料は原油高で、加温控えにより量を減らすか。 入荷量、価格ともに前年をやや下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	428	453	405	491	477	熊本 54%
	29年	363	507	513	513	501	愛知 36%
	30年	474	404	427	387	397	高知 5%
	元年	460	425	387	450	442	山梨 3%
	2年	492	416	421	430	398	群馬 1%
	5ヵ年平均	443	437	426	451	440	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	490	400	410	420	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、熊本、高知などから入荷する。熊本の長なすと愛知の千両はともに生育順調。熊本の長なすは秀M、L中心の玉揃いである。夏秋産地が切り上がり、促成栽培の産地中心の販売となる予想。入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
<p>熊本の長なすと愛知の千両はともに生育順調。熊本の長なすは秀M、L中心の玉揃いである。夏秋産地が切り上がり、促成栽培の産地中心の販売となる予想。入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
ト マ ト	28年	761	572	541	541	654	熊本 41%
	29年	1,014	417	418	400	439	岐阜 22%
	30年	931	449	564	432	357	愛知 22%
	元年	769	486	429	537	487	三重 11%
	2年	1,002	395	547	421	289	大分 2%
	5ヵ年平均	895	457	500	457	418	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,000	370	400	400	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、岐阜、愛知などから入荷する。8月定植時の天候不順により秋冬産地の生育は遅れ気味で11月に出揃う予想。下旬は熊本からの入荷ピークを迎え、安値を見込む。入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
<p>熊本、岐阜、愛知などから入荷する。8月定植時の天候不順により秋冬産地の生育は遅れ気味で11月に出揃う予想。下旬は熊本からの入荷ピークを迎え、安値を見込む。入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ミ ニ ト マ ト	28年	276	1,122	1,126	1,087	1,150	熊本 60%
	29年	360	779	832	714	791	愛知 33%
	30年	436	801	968	879	632	宮崎 3%
	元年	348	842	830	850	847	和歌山 1%
	2年	446	714	949	789	521	岐阜 1%
	5ヵ年平均	373	831	937	849	729	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	425	720	800	700	700	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。北海道からの入荷は終了が近い。天候に恵まれ、生育は10日ほど前進傾向である。夏秋作は終了となり、冬春作のみでの入荷となる。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
<p>熊本、愛知を中心に入荷する。北海道からの入荷は終了が近い。天候に恵まれ、生育は10日ほど前進傾向である。夏秋作は終了となり、冬春作のみでの入荷となる。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

10月29日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	2,290	483	434	504	481	高知 59%
	29年	1,906	580	605	579	553	福岡 14%
	30年	2,566	393	399	367	416	熊本 10%
	元年	2,316	467	454	495	455	栃木 7%
	2年	2,469	414	412	419	410	群馬 4%
	5ヵ年平均	2,309	461	454	466	458	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,300	430	450	410	430	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>高知を中心に福岡、熊本などから入荷する。関東産地から高知など西南暖地に切り替わる。各産地とも生育は概ね順調。10月下旬の冷え込みで上旬は量を減らすも、中旬以降は順調に増加すると見込む。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					
ト マ ト	28年	3,912	624	589	605	690	熊本 45%
	29年	5,235	437	405	425	491	愛知 13%
	30年	5,024	465	544	463	397	千葉 12%
	元年	4,115	538	474	583	555	栃木 8%
	2年	4,995	462	608	498	344	茨城 5%
	5ヵ年平均	4,656	498	522	507	484	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,000	440	400	450	470	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知、千葉からの入荷が中心となる。各産地とも生育は概ね順調であるが、熊本では裂果等の障害果の発生が目立つ。中旬以降は増量を見込むが、加温控えで出方が鈍る懸念がある。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	28年	1,216	1,061	1,072	1,009	1,099	熊本 39%
	29年	1,730	725	769	660	747	愛知 17%
	30年	1,803	761	924	813	590	千葉 9%
	元年	1,769	794	788	788	805	宮崎 7%
	2年	1,874	704	900	785	513	茨城 7%
	5ヵ年平均	1,678	791	879	798	724	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,800	740	780	720	720	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知などからの入荷が中心となる。主力の熊本をはじめ、各産地とも生育は概ね順調。8月は日照不足も9月以降の好天により回復。上旬の出回りは少なめも、中旬以降は増量すると見込まれる。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	394	584	631	614	521	鹿児島 38%
	29年	381	602	691	615	510	宮崎 27%
	30年	628	415	556	411	330	高知 16%
	元年	509	366	383	392	393	茨城 15%
	2年	478	430	522	437	361	北海道 3%
	5ヵ年平均	478	465	542	478	419	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	480	370	350	400	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎を中心に入荷する。冬春産地（宮崎・鹿児島・高知）は台風の影響がなく、作柄良好。各産地、入荷量は徐々に増加する見込み。 入荷量は前年並、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							
ばれいしよ	28年	2,442	171	161	175	180	北海道 94%
	29年	2,446	106	99	109	108	
	30年	2,396	119	117	120	118	
	元年	2,783	83	82	84	83	
	2年	2,327	137	134	141	137	
	5ヵ年平均	2,479	122	119	127	126	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,050	170	180	175	170	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からほぼ全量を入荷する。北海道は蔵入れが終了し、計画的出荷を継続する。長崎は今後の生育次第だが、11月下旬から入荷の見込み。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							
たまねぎ	28年	6,351	67	70	69	66	北海道 99%
	29年	7,322	74	75	81	73	
	30年	6,064	95	96	99	93	
	元年	6,272	74	78	75	72	
	2年	6,225	71	72	72	71	
	5ヵ年平均	6,447	76	79	78	75	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,500	115	110	115	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道からほぼ全量を入荷する。不作傾向で小玉（L、M）中心の入荷となる。加工用の数量が不足しており、生食用を一部入荷している。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

10月29日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	1,723	556	584	601	496	茨城 50%
	29年	1,592	616	661	637	559	宮崎 24%
	30年	2,001	421	519	396	345	高知 13%
	元年	2,048	413	411	419	411	鹿児島 7%
	2年	1,876	428	494	436	362	岩手 4%
	5ヵ年平均	1,848	479	527	489	428	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,900	410	450	400	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城を中心に宮崎、高知からの入荷となる。主力の茨城は9月以降の好天で生育、肥大は良好。宮崎、高知は8～9月の定植当初は曇雨天の影響を受けたものの、その後の好天で回復。潤沢な入荷を見込む。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>							
じゃがいも	28年	7,235	170	161	169	181	北海道 98%
	29年	7,453	103	100	102	108	長崎 2%
	30年	6,209	121	119	124	121	
	元年	7,536	89	91	88	88	
	2年	6,812	137	137	138	138	
	5ヵ年平均	7,049	124	121	124	127	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,000	190	180	190	200	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。前年は玉数少なく大玉傾向であったが、今年は干ばつで小玉傾向。計画的な入荷となる中、量は前年より少なくなる。気温低下で需要が高まると相場は上昇する。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							
たまねぎ	28年	10,732	74	75	73	73	北海道 98%
	29年	11,577	82	79	82	85	中国 2%
	30年	9,818	107	104	108	111	
	元年	9,216	79	80	79	80	
	2年	9,122	75	75	74	75	
	5ヵ年平均	10,093	83	82	83	85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	8,800	120	120	120	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道からの入荷がほとんどを占める。夏場の高温と干ばつの影響で肥大が悪く小玉傾向。前半はL大中心の入荷となるものの、品種の切り替わりにより後半はL中心で小玉比率が高まる見込み。 入荷量は少なかった前年をやや下回り、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

10月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	11,818	279	306	280	264	静岡 17%
	29年	10,515	330	348	331	320	長野 13%
	30年	10,895	302	338	306	280	和歌山 11%
	元年	10,574	326	369	324	304	フィリピン 10%
	2年	10,078	329	369	331	306	岐阜 10%
	5ヵ年平均	10,776	312	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	9,900	320	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、りんご、かきなどが主な品目となる。みかんは、本年は裏年であるが雨が多いため玉太りがよく、入荷量は増加する見込み。りんごは、長野が作柄不良により正品率が低く、入荷量は少ない見込み。果実全体の入荷量は前年並、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
み	28年	4,077	259	224	187	148	静岡 38%
	29年	3,829	271	243	286	285	和歌山 18%
	30年	4,263	229	258	239	206	愛知 16%
	元年	3,846	244	240	263	242	熊本 13%
	2年	4,263	259	276	268	244	三重 8%
	5ヵ年平均	4,056	252	249	248	224	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	4,200	250	270	250	240		
か	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、熊本、和歌山などから入荷する。静岡、和歌山は昨年より生育は前進傾向で、早生みかんが11月上旬頃から入荷開始予定。入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。						
か	28年	2,380	277	712	557	1,104	愛知 84%
	29年	2,285	269	732	569	981	熊本 9%
	30年	2,032	265	630	607	787	鹿児島 2%
	元年	1,752	282	600	429	706	アメリカ 2%
	2年	1,501	336	487	385	627	長野 1%
	5ヵ年平均	1,990	282	646	521	869	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	1,650	320	310	330	320		
き	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	岐阜を中心に愛知、和歌山などから入荷する。岐阜の富有中心の入荷となり、11月中旬以降増加する見込み。愛知、三重の次郎柿は中旬頃に入荷終了。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

10月31日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	44,604	332	352	322	315	愛媛 17%
	29年	46,108	316	292	315	340	長崎 10%
	30年	42,493	329	322	323	341	青森 9%
	元年	43,802	333	318	335	341	和歌山 9%
	2年	43,562	347	345	338	358	熊本 9%
	5ヵ年平均	44,114	331	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	43,000	345	—	—	—		
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、りんご、かきなどが入荷する。りんごは凍霜害等の影響と小玉傾向により入荷量は少ない見込み。いちごは10月下旬の冷え込みの影響が気になるが、今のところ生育順調で例年並みの入荷を見込む。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						
みかん	28年	21,222	289	254	239	238	愛媛 34%
	29年	21,584	270	245	275	281	長崎 21%
	30年	21,334	273	286	275	262	熊本 18%
	元年	20,820	264	249	273	263	和歌山 15%
	2年	21,623	285	293	289	276	佐賀 6%
	5ヵ年平均	21,317	276	266	270	264	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	22,000	275	270	285	270		
みかん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛媛、長崎、熊本を中心に入荷する。各産地生育順調で、10月末から11月上旬にかけて極早生みかんから早生みかんに切り替わる。入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。						
かき	28年	7,370	270	274	251	272	新潟 18%
	29年	7,452	243	237	249	246	奈良 16%
	30年	6,063	248	248	240	260	和歌山 14%
	元年	6,967	266	258	270	273	愛知 13%
	2年	6,503	324	322	328	322	福岡 11%
	5ヵ年平均	6,871	270	267	267	274	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し	6,400	320	320	320	320		
かき	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	富有が福岡等から、平核無が和歌山等からの入荷となる。上旬は平核無中心でその後は富有中心となる。各産地前進出荷傾向も台風の影響なく順調な入荷となる見込み。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						

注：前年の6月、本年の4～6月は入荷なしにつき単価を0円/kgで表

切花・鉢花の11月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 10月31日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	28年	1,826	45	
		29年	1,713	50	
		30年	1,508	40	
		元年	1,600	45	
		2年	1,191	52	
	5カ年平均	1,568	46		
	3年見通し	1,300	50		
	概要	愛知、三重、沖縄から入荷する。上旬の入荷量は例年よりも少ない見込み。中旬以降は秋菊の入荷も始まるが、入荷量は少ないと予想される。			
小 ぎ	実績	28年	753	30	
		29年	732	39	
		30年	739	29	
		元年	750	30	
		2年	764	28	
	5カ年平均	748	31		
	3年見通し	750	30		
	概要	愛知、奈良、沖縄から入荷する。上旬は入荷量も少なく、色バランスも不安定になりそう。中旬以降は入荷量、色バランスともに安定する見込み。			
カー ネ ー シ ョ ン	実績	28年	1,052	35	
		29年	1,021	46	
		30年	1,204	38	
		元年	1,100	38	
		2年	1,147	31	
	5カ年平均	1,105	38		
	3年見通し	1,100	35		
	概要	長野、愛知を中心に入荷する。長野も終盤に差し掛かり、比較的なだらかな入荷となる見込み。愛知は例年に比べ10月の入荷が多く、11月は若干少なめで推移するか。			
か す み	実績	28年	96	159	
		29年	133	125	
		30年	102	120	
		元年	110	115	
		2年	139	87	
	5カ年平均	116	119		
	3年見通し	135	100		
	概要	和歌山、高知、熊本から入荷する。高冷地産の入荷は上旬にほぼ終了となる。西南暖地は台風被害もなく、中旬にはまとまった入荷となる見込み。			

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆり	実績	28年	262	202	
		29年	273	192	
		30年	268	178	
		元年	270	175	
		2年	244	179	
	5カ年平均		263	185	
3年見通し		250	180		
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、新潟、埼玉から入荷する。10月の気温高による前進出荷の影響から上旬は少ない予想。鉄砲は高知と鳥取、LAは埼玉中心に平年並の入荷となる見込み。</p>				
洋らん	実績	28年	515	78	
		29年	463	82	
		30年	503	69	
		元年	500	70	
		2年	350	97	
	5カ年平均		466	78	
3年見通し		400	95		
概要	<p>国内産に加え、輸入物が入荷する。胡蝶蘭は温度次第で寒くなれば減少し、輸入物は通関の遅れが心配される。シンビジウムは輸入品の入荷が終了となり、国内産が徐々に増えてくる。オンシジウムは輸入物中心でピークは過ぎ、減少傾向の見込み。デンファレはエアースプレーで入荷するため、国内単価の動きで入荷量の変動が懸念される。タイ産は台風による被害が懸念される。</p>				
ばら	実績	28年	851	84	
		29年	780	92	
		30年	772	76	
		元年	800	80	
		2年	701	78	
	5カ年平均		781	82	
3年見通し		730	80		
概要	<p>愛知、岐阜、三重を中心に入荷する。夏のダメージも回復傾向にある。月頭は少し遅れた入荷となる見込み。燃油高騰の影響が懸念される。</p>				
枝も	実績	28年	1,502	46	
		29年	1,542	52	
		30年	1,396	54	
		元年	1,450	50	
		2年	1,259	57	
	5カ年平均		1,430	52	
3年見通し		1,300	55		
概要	<p>例年より早くクリスマス花材の動きがあり、10月後半からヒムロ杉の引き合いがある。紅葉物や実物の終わりが例年より早く、市場の動きと一般需要は新型コロナウイルス感染症の影響がズレがでている。急な温度変化などで恒例の露地物は終了間近の見込み。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ドラセナ	実績	28年	11,133	719	
		29年	10,437	826	
		30年	12,114	753	
		元年	11,747	665	
		2年	16,748	941	
	5ヵ年平均		12,436	793	
	3年見通し		15,500	968	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。原木類の輸入減少に伴い、大鉢・中鉢がかなり品薄になる見込み。特に5号未満は大幅な品薄になる予想。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（50.1%）、2位鹿児島（16.6%）、3位沖縄（11.6%）であった。</p>				
シヤコバサ	実績	28年	38,321	454	
		29年	34,066	428	
		30年	41,212	415	
		元年	29,339	520	
		2年	32,266	539	
	5ヵ年平均		35,041	467	
	3年見通し		32,000	531	
概要	<p>入荷量は前年並だが、6号は相対率が上がるため、かなり品薄となる見込み。7号以上も作付け減少に伴い減少するか。5号以下は小鉢中心の入荷となる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（82.8%）、2位埼玉（13.7%）、3位茨城（1.4%）であった。</p>				
シクラメン	実績	28年	704,910	285	
		29年	847,072	271	
		30年	750,854	289	
		元年	659,736	279	
		2年	791,136	302	
	5ヵ年平均		750,742	285	
	3年見通し		762,500	290	
概要	<p>ガーデンシクラメンは昨年並の入荷量が予想されるが、一方で4号・5号は作付け自体が減っているため、入荷減となる見込み。今後の天候にも左右されるが、ガーデンシクラメンは中旬までは安定した価格で推移し、4号・5号に関しては中旬以降より入荷も増えて価格も安定してくる見込み。 前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（34.6%）、2位長野（17.1%）、3位群馬（7.8%）であった。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
シンビジュウム	実績	28年	51,430	1,977	
		29年	43,650	2,399	
		30年	44,723	1,898	
		元年	34,010	2,045	
		2年	40,986	2,268	
		5カ年平均	42,960	2,113	
	3年見通し	40,000	2,275		
概要	<p>入荷量は前年よりやや減少か。長雨の影響で夏場の温度が低く、早期出荷分は前進傾向。生産量の減少は毎年続いている。チェーンストアの投入は11月10日頃からスタートし、下旬から商戦に入る。花の咲きすぎには注意して出荷をお願いしたい。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(62.7%)、2位高知(10.5%)、3位三重(7.2%)であった。</p>				
カラコエ	実績	28年	29,780	188	
		29年	33,287	161	
		30年	27,516	186	
		元年	20,547	208	
		2年	19,132	265	
		5カ年平均	26,052	195	
	3年見通し	19,000	263		
概要	<p>入荷量は前年並か。決して多くはないが、咲前の固いものは敬遠気味が予想され、花色が見えて咲始め等の出荷をお願いしたい。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(46.9%)、2位埼玉(46.5%)、3位愛知(3.0%)であった。</p>				
パンジー	実績	28年	812,441	54	
		29年	915,671	50	
		30年	911,667	50	
		元年	745,065	54	
		2年	900,558	54	
		5カ年平均	857,080	52	
	3年見通し	850,000	52		
概要	<p>入荷量は若干減少か。11月上旬は前年並、中盤以降は開花待ちなどで、引き合いに対して不足する可能性も有り。</p> <p>前年11月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(35.1%)、2位奈良(16.7%)、3位三重(13.0%)であった。</p>				



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.581
2021年11月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434